

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ドラッグコスモス西浦店新築	階数	地上1F
建設地	大阪府羽曳野市蔵之内739-1、740	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	20人
地域区分	5地域	年間使用時間	3,650時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2018年8月6日
敷地面積	5,572 m ²	作成者	(株)UCM 杉山光子
建築面積	2,079 m ²	確認日	2018年8月13日
延床面積	2,063 m ²	確認者	(株)UCM 田尻元子



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 羽曳野市に新設される物販店舗の計画である。 建物外皮の熱負荷低減、設備システムの効率化により省エネルギーに配慮した建物である。	その他 特になし。	
Q1 室内環境 全面的にF☆☆☆☆の建築材料を採用し空気質環境の向上に配慮している。	Q2 サービス性能 売場の天井高さを十分に確保し利用者の快適性向上に配慮している。 更新間隔の長い配管などを採用し建物耐用性の向上に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地境界に可能な限り植栽をほどこし、周辺環境への配慮に努めた。
LR1 エネルギー 建物外皮の熱負荷低減により省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 節水型器具を採用し、水資源の保護に貢献している。 仕上材にリサイクル材を採用し、非再生性資源保護に配慮している。	LR3 敷地外環境 交通負荷抑制への取り組みやLCCO ₂ 排出量削減に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0070

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)ドラッグコスモス西浦店新築工事						
	建設地	大阪府羽曳野市蔵之内739-1 他						
	用途/区分	物販店						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						5	
④	エネルギー削減						4	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.7	4	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				1.0	2	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				2.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.6	4	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項	特になし						